

「新しい文化と学問」(教育出版 6 年上)
 「町人の文化と新しい学問」(東京書籍 6 年上)
 を歴博で授業しませんか

香取市立八都小学校 後藤 薫

1 実施学年および教科・領域

小学校第 6 学年 1 クラス 18 名 社会科

2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

- (1) 単元名 「新しい文化と学問」(教育出版 6 年上)
 「町人の文化と新しい学問」(東京書籍 6 年上)

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

本単元は、小学校学習指導要領の第 6 学年の内容(2)「我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。」における(キ)江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解すること。」(ク)「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことを理解すること。」を受けて設定した。ここでは、江戸時代の文化、主に化政文化を取り上げる。歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学とそれらにかかわる人物の働きや社会が安定するにつれて町人文化が栄え、新しい学問が起こったこと、それらが新しい時代への動きに大きく影響を与えたことを理解させていきたい。また、それらに関わる人物の願いや業績についても考えさせていきたい。

②単元の目標

○社会的事象への関心・意欲・態度

江戸時代の文化や新しい学問を担った人物等に関心をもち、意欲的に調べようとしている。

○社会的な思考・判断・表現

江戸時代の文化や新しい学問から学習問題を見い出して追求し、文化や学問が生まれた背景について考えたことを適切に表現している。

○観察・資料活用の技能

江戸時代のまちの繁栄や文化、新しい学問について、写真や地図などの資料を活用して調べている。

○社会的事象についての知識・理解

江戸時代のまちの繁栄、文化や新しい学問の発展、生産と流通の発達の様子について理解している。

(3) 博物館との関連

①活用方法

「来館型活用」「非来館型活用」

②活用資料

授業実践場所	使用した資料
本校体育館	江戸図屏風 床置きパネル
歴博ガイダンスルーム	江戸図屏風 日本橋のジグソーパズル
歴博第3展示室	・江戸橋広小路ジオラマ ・「北前船(万福丸)のミニチュア模型」 ・旅籠「角屋」と講看板 ・新居宿の夕食と妻籠宿の夕食 ・旅の小道具 ・おかげ参り図絵馬 ・絵双紙屋の展示と展示の説明

17世紀前半の江戸の町の様子がわかる絵画は、ほとんど残っていない。江戸図屏風は、そのころを知ることができるとても貴重な資料で、3代将軍家光の功績をたたえるために描かれたと考えられている。左隻の右側に江戸城が大きく描かれている。その周りには御三家や大名の屋敷が並び、手前に、にぎやかな日本橋や新橋の町が広がっている。江戸湾、増上寺、品川と続き、富士山も見える。一方、右隻は、下町から郊外にかけての風景で、上野（寛永寺）、浅草（浅草寺）、神田（神田明神）、隅田川、水道橋も見える。また、将軍が出向いて猪狩りや川狩りが行われている。7月に歴博から床置きパネル（左隻・右隻）を借用し、本校体育館で授業を行った。また、校外学習の時に、江戸図屏風の日本橋のあたりを拡大しパズルにした教具を借りて、歴博内のガイダンスルームで授業を行った。

※参考文献・引用

国立歴史民俗博物館編 「わくわく！探検 れきはく日本の歴史3」吉川弘文館 2018年
 国立歴史民俗博物館ホームページ 総合展示（第3展示室） こどもれきはく

(4) 指導観

江戸図屏風から江戸のまちの様子や人々のくらしを描いた屏風絵から気づいたことを話し合い、当時の文化が町人や農民が新しい文化の担い手になってきたことに関心をもたせていきたい。江戸の文化や交通網については、歴博の第3展示室を教室代わりに利用して、実際に授業を進めていく。事後指導には、学んだことを生かして、江戸時代かるた作りをして振り返りたい。

3 指導計画（6時間扱い）

過程	時間	「小单元名」 ○指導目標 ●評価	使用した資料	実践場所	※『わくわく！探検 れきはく 3 日本の歴史』掲載ページ
導入 ※実践の概要その1	1	「都市のにぎわいと人々の楽しみ」 ○江戸図屏風（床置きパネル）を見て、江戸時代のまちの様子に興味をもち、資料を読み取ろうとしている。 ●江戸時代の都市の様子に興味をもち、資料を読み取ろうとしている。（発表）	・「江戸図屏風（床置きパネル）」貸し出し資料	本校体育館	p 2～11
	時数なし	DVDを視聴して歴博館内の様子を知る。	歴博の紹介DVD	歴博までの移動のバス内	
展開 1 ※実践の概要その2	2	「日本橋などに集まるいろいろな人々」 ○日本橋付近の江戸図屏風から、江戸時代のまちの人々の生活や当時の輸送の様子を知ろうとしている。 ○江戸橋広小路のジオラマを見て、『わくわく！探検 れきはく 3』 p 35 に掲載されている人物を探そうとしている。 ●進んで江戸時代の町の人々の生活や当時の輸送の様子を知ろうとしている。	・「江戸図屏風（日本橋のジグソーパズル）」 ・江戸橋広小路ジオラマ	歴博ガイダンスルーム 第3展示室	p 8～9 p 34～35

<p>展開 2</p> <p>※実践の概要その3</p>	<p>3</p>	<p>「文化を支えた産業と交通」 ○江戸時代の人やものの動きを調べ、産業の発展にともなう流通網が急速に整備されたことや、人々の暮らしが変化したことに気づくことができるようにする。 ●当時の輸送の様子を知ろうとしている。</p> <p>「活気のある町人の文化」 ○歌舞伎や浮世絵について調べ、江戸時代の町人の文化の特徴をつかむとともに、それらが人々に親しまれ、発展していった様子をつかむことができるようにする。 ●江戸時代に生まれた文化の特徴を時代背景と関連付けて理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「北前船(万福丸)のミニチュア模型」 ・旅籠「角屋」と講看板 ・新居宿の夕食と妻籠宿の夕食 ・旅の小道具 ・おかげ参り 図絵馬 ・絵双紙屋と展示の説明 	<p>第3展示室</p>	<p>p 46～ 51 p 38～ 41</p>
<p>展開 3</p>	<p>4</p>	<p>「新しい学問を発展させた人々」 ○「解体新書」の作成や伊能忠敬の地図づくりの過程などを調べることを通して、新しい学問を求める人々の取組を捉えることができるようにする。 ●伊能忠敬の日本地図、杉田玄白の解体新書について、資料などを活用して、必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>「寺子屋と藩校」 ○江戸時代にはどのような教育が行われていたか調べることができる。 ●寺子屋や藩校の広がりを調べ、学問が発達・浸透していったことをとらえることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊能忠敬 日本全図中図」 ・寺子屋 <p>※歴博滞在時間の都合上、紹介のみとし、授業は教室で行った。</p>	<p>第3展示室 本校教室</p>	<p>p 68～ 69 p 62～ 65</p>
<p>まとめ</p> <p>※実践の概要その4</p>	<p>5 6</p>	<p>「学習のまとめ」 ○補足（歴博で指導できなかった学習の補足） ○江戸時代かるたを作って遊ぶことができる。学習のまとめができる。(単元まとめのテスト) ●かるた作りを通して江戸時代に生まれた文化が現在の暮らしに受け継がれていたり、人々に親しまれたりしていることを確認することができる。</p>		<p>本校教室</p> <p>※時間に余裕があればガイドンスルームでかるた作りを行いたかった。</p>	

4 実践の概要 その1 (1/6) 60分授業

(1) 目標

- 江戸図屏風(床置きパネル)を見て、江戸時代のまちの様子に興味をもち、資料を読み取ろうとしている。(関心・意欲・態度)

(2) 展開 (本校体育館)

時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点(○)と評価(●)	資料
3	1 前時の学習内容を確認する。 ・身分制度を確認し、武士が力をもっていることを確かめる。また、家光のころは、日本が鎖国下にあったことを確認する。	○江戸時代は身分制度によって厳しい時代だったが平和になったことを確認する。	江戸図屏風床置きパネル 虫めがね 付箋
2	2 本時の学習内容を知る。 江戸のまちの様子を見て気づいたことを発表しよう。	○この屏風が江戸幕府3代將軍徳川家光の行ったことを称えるために描かれたと考えられていることを伝える。	
10	3 江戸図屏風に描かれている徳川家光を探し、どんなことをしているのかグループで話し合いながら想像させる。	○「～から、だろう。」「～から、ではないか。」という表現で自分の考えの根拠を明らかにさせる。詳しく書けない児童には、気づいたことを書くだけでもよいと助言する。	
25	4 江戸図屏風に描かれているまちの様子や人々のくらしの様子について、グループごとに話し合い、付箋を使って気づいたことをまとめる。 ・「遊び」に関わる内容(黄緑色)→文化 ・「商売」に関わる内容(黄色)→交通、産物	予想される内容 ・江戸には町人、武士、僧などの人がいるから、人が楽しめる場所があったのではないか。 ・鎖国中なのに船がたくさんとまっているのは国内の物を運ぶのに使っていたのではないか。 ・江戸には買い物をしている人がたくさんいるからお金や時間に余裕があったのだろう。	
15	5 江戸時代の江戸のまちの様子や人々のくらしを描いた絵図を見て気づいたことを発表する。	●江戸時代の都市の様子に興味をもち、資料を読み取ろうとしている。(発表)	
5	6 本単元の学習問題(みんなのめあて)を話し合う。 江戸図屏風で描かれているこのころの社会は、どんな様子で、どのような文化や学問が生まれたのだろうか。	○児童の発表した課題を受けながら、学級としての学習問題を決めていく。	



↑体育館で江戸図屏風床置きパネルを広げて授業を行ったときの様子

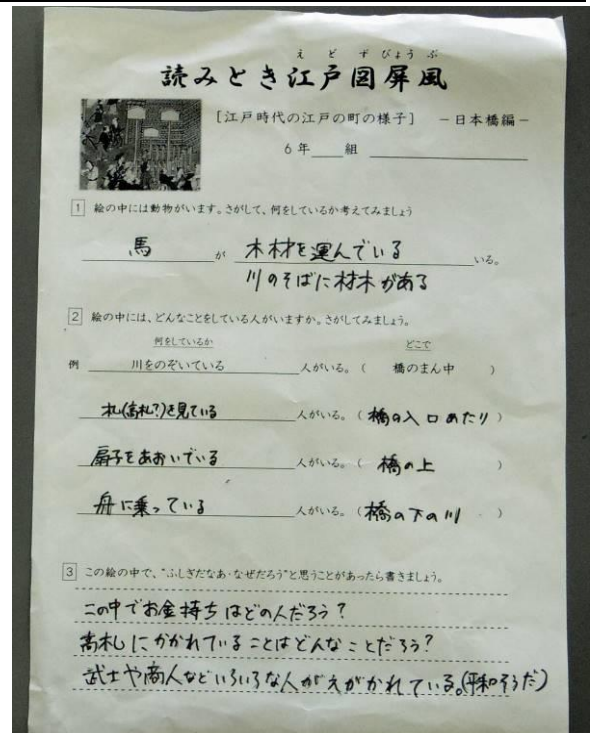
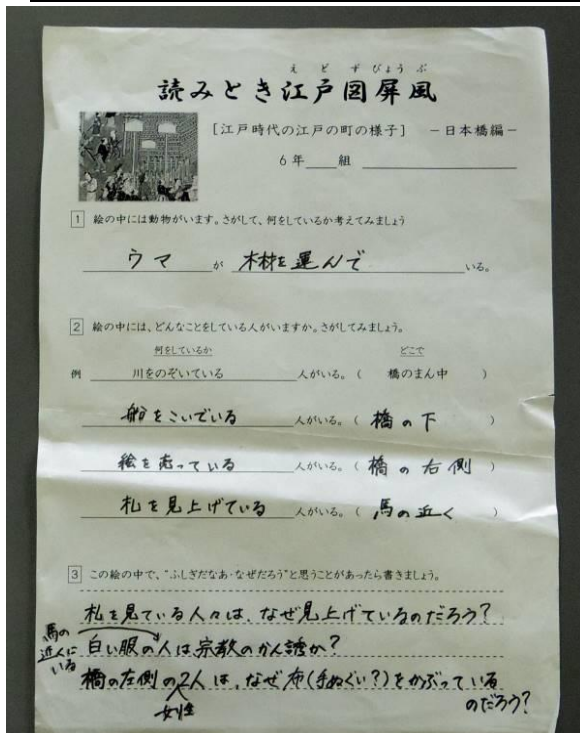
その2 (2/6)

(1) 目標

- 日本橋付近の江戸図屏風から、江戸時代のまちの人々の生活や当時の輸送の様子を知ろうとしている。(関心・意欲・態度)

(2) 展開 (歴博ガイドンスルーム)

時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点(○)と評価(●)	資料
5	1 前時に学習した「江戸図屏風」について振り返る。 ・真ん中に江戸城、周辺に大名屋敷がある。 ・武士や町人など全部で 5000 人が描かれている。 ・金雲は、遠近や高低、場面や時間の経過などを表す。 ・作者不詳	○1人または2人1組でゲームとして競わせることで興味をもって取り組ませたい。 ○パズルでは詳細がわかりにくいという声がある場合は、大型スクリーンに拡大して映し出して確認する。 ●日本橋の様子から、江戸時代のまちの人々の生活を知ろうとしている。	大型スクリーンに拡大した江戸図屏風 ジグソーパズル
10	2 「日本橋付近」のジグソーパズルを組み立てる。		
20	3 歴博が用意したワークシート「読み解き江戸図屏風」に取り組む。 ・物や人をどのように運んでいたか。 ・馬や船が物の大事な輸送手段だった。 ・陸上は馬(材木、米)、海上は船(魚、米、材木、人)で。 ・どんな人が、何をしているのか。 ・漁師;魚を捕って帰ってきた。 ・武士;刀を2本さしてぶらぶら歩いている(かぶき者) ・物乞いをしている人;お金をもらうことが仕事 ・お坊さん;寄付を募っている。 ・高札を見ている人	○いろいろな人に着目し、何をしているのか多くの質問を出させたい。→私が答えられない質問には、歴博の学校対応の先生にお願いします。	ワークシート
10	4 これから見学し、授業を行う 第3展示室の説明をする。	○展示室は走らない、大きな声を出さないなど、マナー面での注意について確認する。	



その3 (3/6)

(1) 目標

- 江戸時代の人やものの動きを調べ、産業の発展にもなって流通網が急速に整備されたことや、人々の暮らしが変化したことに気づくことができるようにする。
- 歌舞伎や浮世絵について調べ、江戸時代の町人の文化の特徴をつかむとともに、それらが人々に親しまれ、発展していった様子をつかむことができるようにする。

(2) 展開 (歴博第3展示室)

時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点(○)と評価(●)	資料
15	1 「北前船」について、展示物を見て教師の話で知る。 ・北海道や東北地方の産物を日本海まわりで大阪に運んだ。北海道からは昆布やにしんなどが運ばれ大阪からは米や塩、酒などが運ばれた。	○北前船の模型などから、日本各地が陸路や海路で結ばれ流通が盛んになったことを読み取らせる。 ●当時の輸送の様子を知ろうとしている。	・北前船のミニチュア模型
5	2 おかげ参りについて知る。 ・おかげ参り図絵馬を見て、おかげ参りについて知る。	○伊勢神宮へ向かう人々の様子の資料から、各地の名所を観光していく旅の楽しみを知らせる。	・おかげ参り図絵馬
10	3 伊勢神宮に向かう街道の宿場椋本宿(三重県)の旅籠の話聞き、実際に中に入ってみる。 ・立派な宿だな。 ・旅のごちそうは豪華な食事だね。		・旅籠 ・新居宿の夕食と妻籠宿の夕食
15	4 歌舞伎や浮世絵はなぜさかんになったのだろう。 ・浮世絵は版画なので、たくさん刷ることができて、多くの人が手に入ったからだろう。 ・暮らしを楽しむ余裕ができたからだろう。 ・一般の人々にも気楽に楽しめる文化が増えてきたのだろう。	●江戸時代に生まれた文化の特徴を時代背景と関連付けて理解している。	・旅の小道具 ・絵双紙屋の展示 ・展示説明資料「錦絵にみる江戸文化」



第3展示室 北前船と川舟



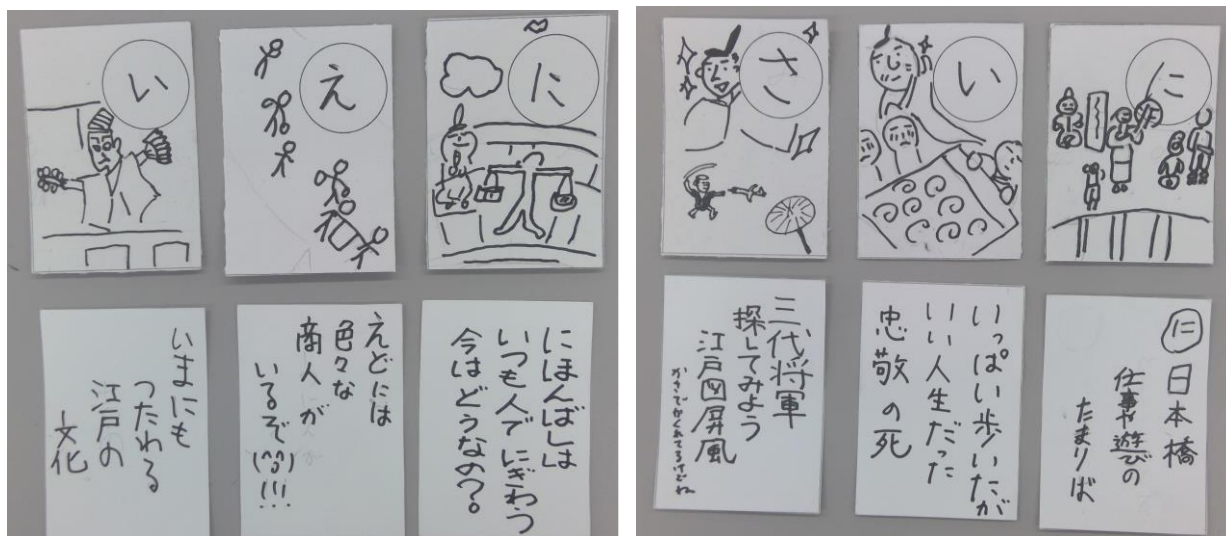
第3展示室 旅籠「角屋」

その4 (6/6)

(1) 目標

- 単元のまとめとして、かるた作りをして遊ぶことができる。

(2) 児童の作品



- 博物館見学後の事後指導として、昨年度までは歴史新聞や、〇〇時代図鑑などを書かせることで、単元のまとめを行っていた。確かに振り返りには大変効果的であるが、今回は夏休み前で時間が取れなかったもので、同じ博学連携の先生方の助言で「江戸時代かるた」を作成させてみた。印象に残ったことをイラストと短い言葉でまとめたため、児童の思いを凝縮した振り返りが短時間でできた。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・この実践を通して、指導者自ら博物館の資料を積極的に調べ、連携をもつこと、博物館の学校対応の職員にも働きかけ、解説などを組み入れることで、児童も博物館展示資料に対する関心・意欲が高まり、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。
- ・資料から時代背景などを読み取る力がつき、歴史に更に興味を持つきっかけとなった。

(2) 課題

- ・博学連携の取組を継続し、定着していけるようにしたい。本校の職員には、この取組を機会あるごとに紹介してきたが、他校の先生にも積極的に伝えていきたい。

(H30年度は香取教育研究会社会科部会で紹介)

- ・平成31年1月現在、『わくわく！探検 れきはく日本の歴史』シリーズとして、近世の他に中世、民俗、近代・現代が発刊している。歴博の展示物とこの本を活用すれば、江戸文化以外の単元にも生かせると思う。次回、6年生の社会科を指導する機会があれば、ぜひ実践してみたい。

